



2023年11月10日

各位

株式会社 りそなホールディングス
(コード番号 8308 東証プライム)

完全子会社である株式会社関西みらいフィナンシャルグループの 吸収合併(簡易合併・略式合併)に関するお知らせ

りそなホールディングス(社長 南 昌宏)は、本日開催の取締役会において、関係当局の認可等を得られることを前提に、2024年4月1日を効力発生日として、完全子会社である株式会社関西みらいフィナンシャルグループ(社長 西山 和宏)を吸収合併(以下「本合併」)することを決議し、本合併に係る合併契約書を締結いたしました。

なお、本合併は当社の完全子会社を対象とする吸収合併であるため、開示事項・内容を一部省略しています。

記

1. 本合併の目的

当社の中期経営計画に掲げる「グループ連結運営のさらなる強化」に資する施策として、次なる「グループガバナンスの強化」に向けたステージへ進化するための最適な組織体制の構築を図ることを目的とし、本合併を決定しました。

2. 本合併の要旨

(1) 本合併の日程

合併契約承認の取締役会決議日(関西みらいフィナンシャルグループ)	2023年11月9日
合併契約承認の取締役会決議日(当社)	2023年11月10日
合併契約締結日	2023年11月10日
本合併の効力発生日(予定)	2024年4月1日

(注)本合併は、当社においては会社法第796条第2項に規定する簡易合併に該当し、関西みらいフィナンシャルグループにおいては同法第784条第1項に規定する略式合併に該当するため、双方において合併契約に関する株主総会の承認を得ることなく行うものです。

(2) 本合併の方式

当社を存続会社とし、関西みらいフィナンシャルグループを消滅会社とする吸収合併(簡易合併・略式合併)です。

(3) 本合併に係る割当ての内容

当社は、関西みらいフィナンシャルグループの全株式を保有しているため、本合併による株式その他金銭等の割当てはありません。

(4) 消滅会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

該当事項はありません。

3. 本合併の当事会社の概要(2023年3月31日現在)

	吸収合併存続会社		吸収合併消滅会社	
名称	株式会社 りそなホールディングス		株式会社 関西みらいフィナンシャルグループ	
所在地	東京都江東区木場一丁目5番65号		大阪府大阪市中央区備後町二丁目2番1号	
代表者の役職・氏名	取締役兼代表執行役社長 南 昌宏		代表取締役兼社長執行役員 西山 和宏	
事業内容	銀行持株会社として、次の業務を営むことを目的とする。 1. 当会社の属する銀行持株会社グループの経営管理及びこれに付帯又は関連する一切の業務 2. 前号の業務のほか、銀行法により銀行持株会社が行うことのできる業務		銀行持株会社として、次の業務を営むことを目的とする。 1. 当会社の属する銀行持株会社グループの経営管理及びこれに付帯又は関連する一切の業務 2. 前号の業務のほか、銀行法により銀行持株会社が行うことのできる業務	
資本金	50,552百万円		29,589百万円	
設立年月日	2001年12月12日		2017年11月14日	
発行済株式数	2,377,665,966株 ^{※1}		372,500,934株	
決算期	3月31日		3月31日	
従業員数	19,283名(連結)		5,388名(連結)	
大株主及び持株比率 ^{※2}	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16.56%	株式会社りそなホールディングス	100.00%
	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	7.14%		
	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	3.23%		
	第一生命保険株式会社	3.16%		
	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	2.70%		
	日本生命保険相互会社	2.28%		
	AMUNDI GROUP(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	1.89%		
	STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1.61%		
	SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	1.55%		
	大同生命保険株式会社	1.20%		

※1 当社は2023年7月31日に普通株式15,351,300株を消却しており、当該消却後の発行済株式数は2,362,314,666株となります。

※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

直前事業年度の財政状態及び経営成績

(単位：百万円。特記しているものを除く。)

	株式会社 りそなホールディングス (連結)	株式会社 関西みらいフィナンシャル グループ(連結)
決算期	2023年3月期	2023年3月期
連結純資産	2,534,052	509,273
連結総資産	74,812,710	14,046,034
1株当たり純資産(円)	1,065.31	1,367.07
連結経常収益	867,974	186,542
連結経常利益	227,690	29,148
親会社株主に帰属する 当期純利益	160,400	22,272
1株当たり連結当期純 利益(円)	67.49	59.79

4. 本合併後の状況

本合併後の当社の名称、所在地、代表者の役職・氏名、事業内容、資本金及び決算期は、いずれも合併前と変更ありません。

5. 業績に与える影響

本合併は、当社の完全子会社との合併であるため、当社の連結業績に与える影響は軽微です。

(参考)当社の当期連結業績目標(2023年5月12日公表分)及び前期連結業績

(単位：百万円)

	親会社株主に帰属する当期純利益
当期連結業績目標 (2024年3月期)	150,000
前期連結業績 (2023年3月期)	160,400

以上

<本件に関するお問合せ先>

りそなホールディングス コーポレートコミュニケーション部

(東京本社)TEL:03-6704-1630(大阪本社)TEL:06-6264-5685(埼玉分室)TEL:048-835-1524

関西みらいフィナンシャルグループ 広報室

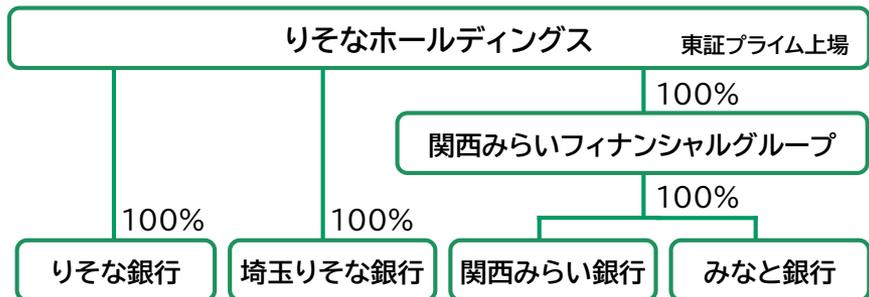
(関西みらい銀行)TEL:06-6268-7443 (みなと銀行)TEL:078-333-3247

りそなHDによるKMFGの合併(2024年4月予定)

グループ連結運営のさらなる強化に向けて

これまで

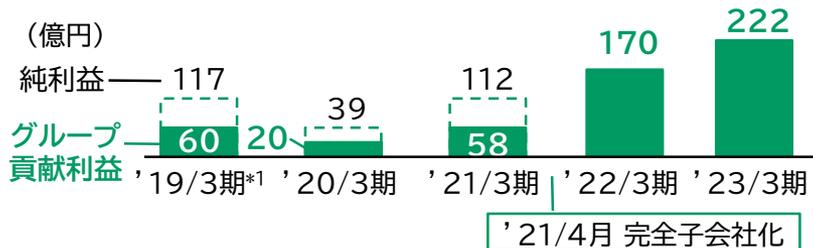
スピード感ある“合併後の統合(PMI)”実現にKMFGが機能



■ KMFGが関西最大の地銀グループのスタートを主導

- グループ商品・サービスの展開 ⇒ トップラインシナジー発揮
- グループ事務統一、店頭インフラ改革 ⇒ コストシナジー発揮
 - KMBの事務・システム統合を1年半で完遂
 - BinB等でKMB・MBの拠点を再構築
- 人事交流の活性化、人財の融和促進

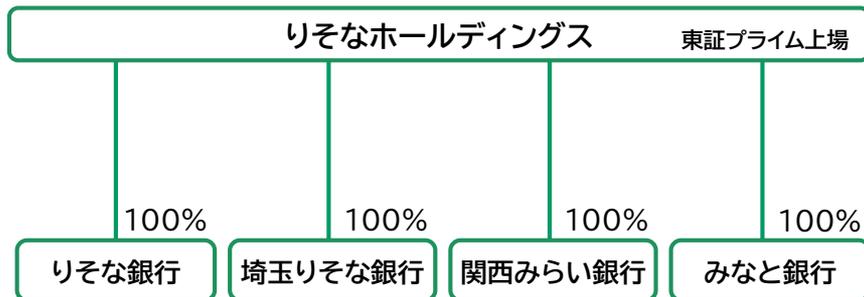
グループ貢献利益の拡大



*1. 負ののれん発生益を除くベース

これから

さらなる飛躍に向けて新たな組織体制へ



■ 「グループガバナンス」の強化

- グループ連結運営の高度化
- 意思決定のスピードアップ・シンプル化
- 各子銀行の実効性ある成長戦略の実現

■ 「ワンプラットフォーム・マルチリージョナル戦略」確立へ

- バックヤード・間接部門一本化による効率化の追求
- 4銀行が各々の地域性等を踏まえ、お客さまに最適な価値を提供

「リテールNo.1」実現への加速

金融+で、
未来をプラスに。

(略称) りそなHD:りそなホールディングス、KMFG:関西みらいフィナンシャルグループ、KMB:関西みらい銀行、MB:みなと銀行

「リテールNo.1」実現への加速にむけた取り組み

「リテールNo.1」実現への加速：コーポレートトランスフォーメーション(CX)に取り組む最初の1,000日
 ～「再生」から「新たな挑戦」へ～

◆ SX・DX等を見据えた「変化への適応」

◆ 収益・コスト構造改革のさらなる加速

価値創造力の強化

◆ グループの強みを活かしたビジネスの深掘と
 新たな価値の創造

深掘・挑戦

- ・コンサルティング力の質的・量的強化
- ・オールリそなの発揮(お客さま基盤・機能)
- ・テクノロジー・データの利活用

共創・拡大

- ・「お客さま基盤」「経営資源」「機能」拡充
 - ✓ 金融デジタルプラットフォーム
 - ✓ インオーガニック投資

<提供価値>

事業・資産循環

促進

社会構造転換

多様化・高度化する
 こまりごと

<注力ビジネス>

- ・ 中小企業向け貸出
- ・ 事業承継・資産承継
- ・ キャッシュレス・DX
- ・ 資産形成サポート
- ・ 企業年金
- ・ 住まい

経営基盤の次世代化

◆ グループ連結運営のさらなる強化と
 一体的な基盤改革

ガバナンス

- ・ グループガバナンスの強化
- ・ リスクガバナンスの高度化
- ・ お客さま本位の業務運営徹底

人的資本

- ・ 「価値創造」「Well-being」の実現
- ・ 3つの柱(エンゲージメント、プロフェッショナル、共創)の共鳴

知的資本

- ・ 業務プロセス：解体・再構築
- ・ チャネル：リアル・デジタルの一体化
- ・ システム：汎用化・オープン化・スリム化

資本の質的・量的拡充から本格活用フェーズへ

「ワンプラットフォーム・マルチリージョナル戦略」

